

# 学校関係者評価報告書

奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

1. 学校関係者評価実施日 平成 30 年 2 月 21 日 (水)

## 2. 評価結果

(大項目) I. 教育活動に関するもの

(中項目) (1) 教育目標・教育計画

- ・六年一貫のイメージがあり、正直 4-4-4 の成果 (メリット) が中入生については見えにくい。わずか 2 年で制服が替わってしまうのももったいない
- ・いろいろな私学があるが、奈良学園登美ヶ丘は小学校から中学校へ上げてもらいやすい学校であるというイメージをもっている。
- ・小学校からの内部生の保護者として感じることは、小学校の 5 年・6 年で中学と同じようになるので、中学入学後は比較的スムーズに切り替えが出来たと思う。長期休暇の後の「課題考査」や宿泊研修等の事前事後学習と、研修から帰ってきてからのプレゼンなどは、中入生にとっては慣れないことかもしれないが、内進生にとっては当たり前のこととすることが出来る。ただ、M1・M2 はちゅうぶらりんだと感ずることがあった。小学校のどこかで、受験に対する勉強をする必要があるのではないかとも思う。内進生の中には、入試に関して、2 教科と 4 教科の試験の違いもあるし一緒にしないで欲しいと思っている者もいる。そして、塾に行かないと I 類には入れないという空気もある。実際に塾へ行って見て、意外と成績が伸びて、I 類を飛び越えて、もっと上の学校の中学受験をする者もいるということである。
- ・M3・4 生にとって、MY 職員室で先生に声を掛けづらい環境にあることを聞く。

(3) 道徳・特別活動

- ・行事については Y4 が参加できるものがなくてさびしかった。  
普段なら掃除を好まない者でも、「ふれあい清掃」でも参加したかったと言っていた。  
遠足は、自分達で決められるので楽しみにしている。
- ・尚志祭は、分かれての開催となりさびしく思う。小学生は中高生にあこがれの気持ちを持って見ていた。中高生の異学齢の交流が少ない。生徒会と児童会の話し合いがあればよいと思う。
- ・クラブ活動の下校時間を徹底して欲しい。あまりにも遅いときがある。  
最終下校のアナウンスしているのか。早く帰るように指導して欲しい。時間の使い方をしっかりと考えて、「けじめ」と「めりはり」をしっかりと指導して欲しい。
- ・テスト 1 週間前でもクラブ活動をされる部活もあり、クラブ自粛期間として徹底できていないのではないか。

(7) 進路指導

- ・業者が来て話しをする「進路講演会」は内容がマンネリ化して、聞いていて非常に残念である。  
M3・M4 の保護者対象の進路について語る会は、身近な学校の取り組みを話していただいたのですごく良かった。
- ・子ども達がやりたい事などに答えていただくためには、学校としての情報量がどの程度蓄積されているかが大切と考えている。その点で不安に感じ塾に行かせた方が良いか考えておられる保護者もいる。